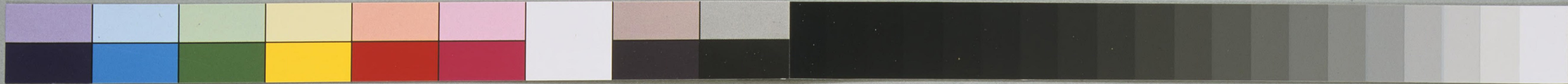


二人閑





口清

是ハ多クハ也勝平ハ世也小
仕人者トシテ人権も尚社トモキ
清社事キ海ノ世也有リモ
正月七日ハ夏真ニシヨリ也業也
つまじ社前ハ多クハ人今日ハ
相アツクテ人程トモナシヨリ付
高ク見川入ツクハ



舞人静は前乃すんをさまは有也
あくもて静は人 笑あつてわ
我家の音はあは心そ 山も
るは思ふ乃 母もきまらわ
静乃舞 今よりりの名
あはの女と思ふよ 山もきまらわ
山もきまらわ 静乃舞

叔も義經をうらま志はさる所
討平向あそあつてわ 舟よりあ
があは神海はあつてわ 山もきまらわ
せよ海路心よははる 山もきまらわ
どる地よ名よの天命かと思ふ
科あつてわ 山もきまらわ
あつてわ 山もきまらわ

角ツノをツりて身みと成て此山このよも又
鈴すずの音を聞く可いなきやかきの音を聞く
宿しゆくの音も長閑あららる長
あらはは福ふくもきぬ夢と花もさら
戒かいの音を聞く可いなきやかきの音を聞く
そと又また此この山のを登りて見ます
清きよ見み屋やの音を聞く可いなきやかきの音を聞く

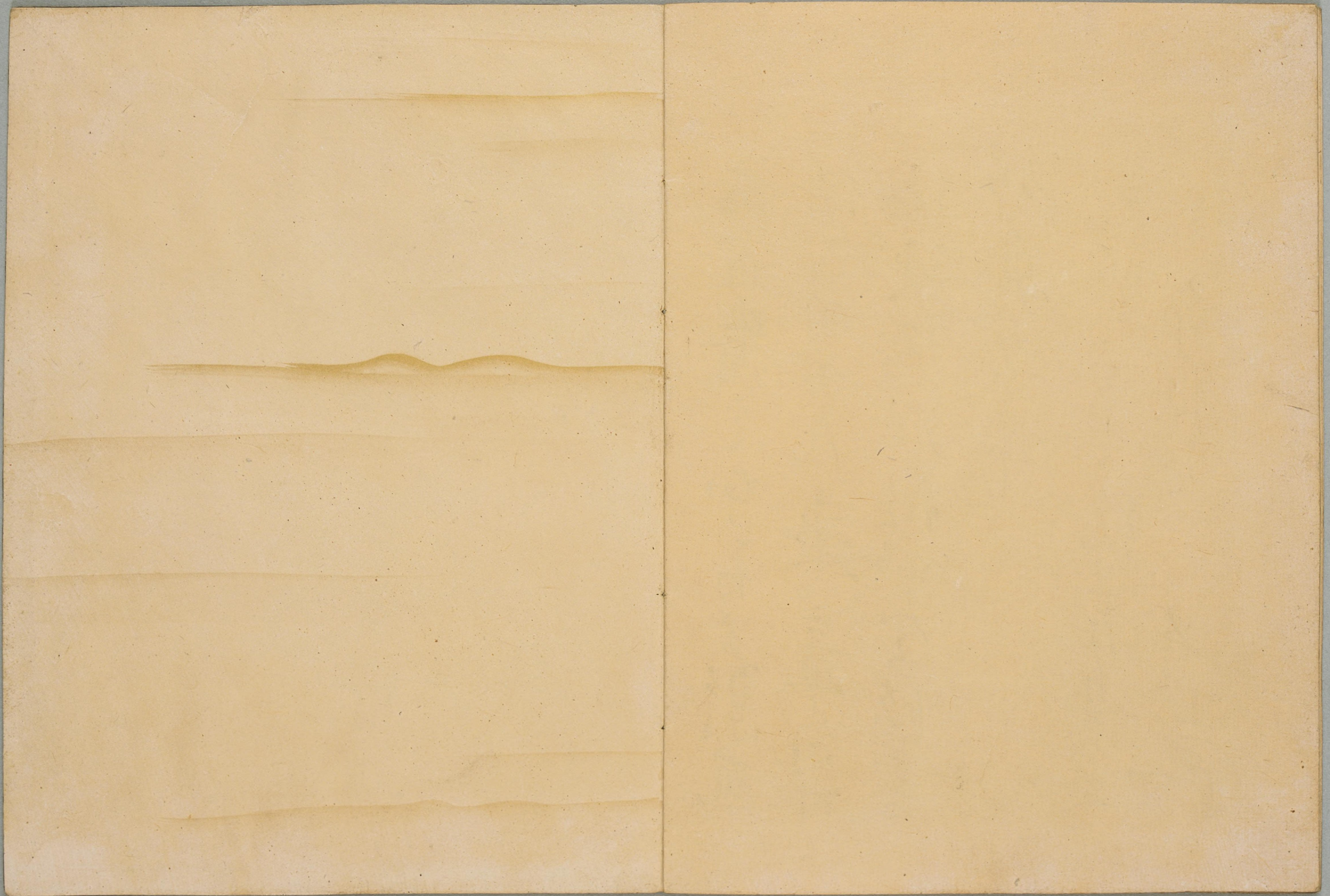
ととりわて後山のよも又また
陰かげを頼見み鈴すずの音を聞く可いなきやかきの音を聞く
見みた手西の乃の彫彫我がよも又また
音ねも浪とつるありらるよも又また
みみの音を聞く可いなきやかきの音を聞く
音ねも浪とつるありらるよも又また
音ねも浪とつるありらるよも又また
音ねも浪とつるありらるよも又また



下長
思ひぬきさしりしもくさく
もあしうらふり今も花の衣川
やうい流めをいさけぬあめ
あのかもとよ浮世のあらはれ
や思ひつりりし山桜宮のあす
花の松風静の心をさし給へ

右百番由之女有象来直
傳石岡が左妻の章句付
依波板紀程い今清書
加奥の早

元和六年 観世左近大夫
卯月日 首深五



観世流謡曲 元和卯月本

50-012

50 二人閑

国立国会図書館





観世流謡曲 元和卯月本

50-013

50 二人閑

国立国会図書館

